

(別添3)

【北本市】
校務D X計画

1 校務D X化の現状

本市では、令和4年度に教職員用コンピューター及び統合型校務支援システムの更新を行った。統合型校務支援システムについては、主な機能として次の機能を備えており市内各校では活用が図られている。

① 児童・生徒情報の管理

児童生徒に係る情報を一元管理することで、進級やクラス替えに伴うデータの移行がスムーズに行えている。また、権限をもった教職員については、閲覧ができるようになっており、児童生徒の情報の把握が行えるようになっている。

② 児童生徒の出欠管理

日々の出欠について、入力することで通知表や要録、日誌などにデータ連携が行えるようになっている。出欠の状況については、教育相談担当や養護教諭なども確認を行うことで、教育相談的アプローチが必要な児童生徒の把握や、校内の体調不良者の割合の把握などが行えるようになっている。

③ 成績の管理

各種テストの点数や評価等を入力することで、通知表や要録への転記及び出力が可能となっている。

④ 日程の管理

学校日誌の機能により、各種情報の入力や児童生徒の出欠の状況を呼び出すことで、学校日誌の作成や出力が行えるようになっている。

これらの機能により、従来手書き形式で行われていた表簿や資料を印刷することが可能になっている。また、データを一元管理することで、さまざま利用や活用が行えるようになっている。

2 校務D X化の課題

クラウドサービスの活用

グループウェアを活用し、チャット及びファイルの共同編集など、職員間のコミュニケーション及び協働的な作業が推進できるようにする。また、保護者用の連絡ツールや自動採点ツールなど、様々なクラウドサービスに関する調査や研究を行い、導入の在り方について検討する。

教職員用コンピューター及び校務支援システム等の更新に向けた検討

教職員に対する調査を実施し、現在の環境に対する課題や、次期環境に向けた要望等を把握する。また、各種校務支援システム等に関する調査や研究を行う。さらに、教育委員会として、今後の教職員の働き方像をイメージし、ネットワーク統合や次期システム等の整備方針を決定する。